

ラジオドラマ

「一期一会」 森園麻由作

《登場人物》

老人 謎

祖母 80歳

ユウ 21歳

ユウの父 55歳

SE 公園ノイズ

老人 「その娘さん、火をお持ちかな？」

ユウ 「え？」

老人 「このタバコに火が欲しいんだが」

ユウ 「喫茶店のマツチです。どうぞ」

老人 「いや、あんたにつけて欲しいんじゃないが」

ユウ 「私に？」

老人 「そう、あんたがつけなければ意味がないのさ」

ユウ 「(微笑んで) いいわよ。おつけしますよ」

SE マツチの音

老人 「ありがとう。(ふかぶかと吸う)」

M 美しい音楽でブリッジ

SE 病院ノイズ

父 「皆来てるぞ」

ゴウ 「おばあちゃんは大丈夫なんですよ？」

父 「さ、早く……」

SE 酸素吸入器の音

ユウ 「おばあちゃん！ユウよ」

父 「おばあちゃんっ子のユウが来たよ」

SE 酸素吸入器の音つづく

SE 雀の鳴き声

父 「ユウ、ユウ…」

ユウ 「あ、あ、あ(伸びをするが)私、眠ってたの？」

父 「看病で疲れたのさ。…ユウ、おばあちゃんがお前の顔、見たいて」

ユウ 「えーっ？」

父 「意識が戻ったんだ」

SE 駆け寄るユウの靴音

ユウ 「おばあちゃん！わかる？ユウ！側にいるよ！」

祖母 「ユ・ウ…」

ユウ 「おばあちゃん(泣き声)」

祖母 「おばあちゃんの、手を…にぎっておくれ…」

ユウ 「ええ、ええ！」

祖母 「おばあちゃんね、…天国の階段まで行ってきたよ」

ユウ 「天国の階段？」

祖母 「とても急な階段だった。のぼり方がわからなかった」

ユウ 「それで？」

祖母 「それで、そう、戻ってきたの」

ユウ 「おばあちゃん、ちよっと休もうか」

祖母 「だめ！忘れる！その前に伝えないと」

ユウ 「私に？」

祖母 「そう。神様はその階段から時々この世界に降りてこられるんだ」

ユウ 「私たちの目にも見えるの？」

祖母 「見えたり、見えなかったり…」

ユウ 「おばあちゃんは会ったのね。その神様と」

SE 雀の鳴き声

祖母 「神様がね、おっしゃった。私に…」

ユウ 「なんて？」

祖母 「おばあちゃんは、どこかの娘さんに命を延ばしてもらったんですって」

ユウ 「え？どうやって？」

祖母 「どこかの娘さんが、消えかけた命の炎をまた何かで灯してくれた」

ユウ「何かで？」

祖母「ん〜たしか、たしか喫茶店のマッチだったよ…」

SE マッチの音、シンボリックに

M I N S B ・ G

アナウンス

ただいまの出演

ユウ

森園麻由

祖母

甲木慶子

老人と父

これで森園麻由作・香月隆補作「一期一会」を終わります。

M U P P F ・ O